ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
383	2007/08/17	70383	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eur J Lipid Sci Technol 2006; 108: 812-826	プリオンで汚染した牛脂由来の脂肪酸およびグリセロールの安全性について検討した。リスク評価計算は、プリオン感染性の不活性化だけでなく、病理学的プリオン蛋白の変性に関する定量的データに基づいて提供された。脂質加水分解の基本的油脂化学過程の産業的条件は、TSE汚染リスクを容認できるほど最小に減ずるための効果的な手段といえる。産業的獣脂由来製品はすべて、その起源にかかわらず、安全とみなすことができる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BRAIN MEDICAL 2006; 18: 371-376	BSEの発生状況は、今までの発生総数が125例以上の国では減少傾向にあるが、日本など低発生国では2005年に発生の増加がみられている。新たな問題として、非定型BSEが世界各国で検出されている。また特定危険部位以外の組織でプリオンが確認されている。慢性消耗病(CWD)はシカのプリオン病であり、自然状態で水平感染を起こし、伝播を阻止することは不可能に近い。しかし、シカとヒトとの間ではかなり大きな種の壁があることが示唆されている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2007; 88: 1048-1055	56頭の子牛に経口的BSEチャレンジを行い、4ヶ月毎に屠殺し、剖検動物のリンパ管ならびに末梢および中枢神経系に属する組織を免疫組織化学的方法およびイムノブロット法で調べ、PrPScの存在を分析した。その結果、PrPScは自律神経系を介して胃腸管から中枢神経系へ拡がっていくことが明らかとなった。非自律末梢神経へのPrPSc浸潤は中枢神経系でのプリオン複製後の2次的な逆行事象であった。また、PrPScは感染後24ヶ月の動物の脳幹で検出され、以前の報告より8ヶ月間早かった。
384	2007/08/17	70384	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Ann N Y Acad Sci 2006; 1081: 171-173	タイ南部で自然感染した日本ウズラの卵白と尿膜液混合液を含む卵の内容物と、卵管からトリインフルエンザウイルスが回収された。発育鶏卵の絨毛尿膜嚢接種によりウイルスを分離し、RT-PCRによりH5N1亜型インフルエンザAウイルスと確定した。またウイルス抗原は複数の組織の実質で検出された。ウイルス抗原が全身に存在したことからウイルス血症の段階であると考えられた。アウトブレイク地域からの卵の移動や卵の消費によるウイルス汚染や拡大に対し安全対策をとる必要がある。